

## 1 4. 畜産経営が変わる！技術と資金繰りの改善ポイント

豊肥振興局

○小野磨袋斗・宮木隆裕・衛藤剛生・森本剣介・渡邊綾女・平木亜里紗

### 【背景・目的】

豊肥地区は、肉用牛産地として県内最大の地域である。コロナ禍後の景気低迷、不安定な海外情勢を背景にした円安の進展による輸入飼料の高止まり、燃料費や肥料代などの原材料費の高騰など、畜産経営を取り巻く経営環境の悪化により、資金繰りの対応に苦慮している経営体も少なくない。そのため、畜産経営を維持・改善できるように、繁殖成績および子牛市場出荷成績の改善による生産性向上、併せて資金繰りの改善に向けた経営管理の指導を行った。

### 【取組内容】

子牛市場出荷成績の伸び悩みや経営環境の悪化を理由に振興局へ相談のあった生産者、振興局でデータ分析を行った重点農家のうち成績下位かつ改善に意欲のある生産者をピックアップした。現状分析として繁殖関連データの整理、子牛市場出荷成績の推移および資金繰りを把握し、課題の抽出および対策の提案を実施した。繁殖管理に課題のある生産者については発情発見率および受胎率を繁殖管理アプリによりモニタリングし妊娠率を算出、分析を行った。子牛市場出荷成績の改善に向けては、飼料給与メニューの聞き取りや飼槽等の給与環境の確認、子牛の発育調査の解析を実施した。資金繰りでは直近3か年の税務申告および既存借入金の返済状況、ライフステージに応じた生活費などを考慮した資金繰り計画を作成し当該生産者と共有した。

### 【成果】

繁殖成績に課題のあった生産者では、発情発見率の向上に向け人工授精を生産者自身が実施することにより、分娩後のVWPを短縮し初回授精日を早めることで発情発見率は40%から60%へと向上した。親子継承した生産者では繁殖管理の分析により曖昧であった長期不受胎牛の選定が明確になり母牛更新することで経営体全体の受胎率が26%から37%へと向上した。稲WCS生産や牧草の刈取りと重なる時期は発情発見率が低下傾向にあり適正面積へと変えるとともに、発情回帰に注意すべき牛をピックアップすることで効率的な観察へと繋がっている。子牛市場出荷成績に課題のあった生産者では、飼槽周辺的环境改善や発育状況を意識した子牛管理を行うことで出荷成績が向上した。もともと子牛市場出荷成績がよかった生産者においても繁殖成績の改善により子牛生産率が上がることで利益率が向上した。

これらの技術的改善と併せて資金繰りについても整理、分析を継続し、技術と経営のリンクの強さを生産者自身が強く認識し始めており行動の変容へと繋がっている。

### 【残された課題】

個別生産者の取り組み内容と成果を産地全体へ広げてくことが課題であり、今後地域の座談会や研修会等の場を通じ面的に広げていく。畜産経営環境は原材料高騰、労働力不足など従来からの課題に加え、主食用水稻の価格高騰により稲WCS生産量が減少するなど自給粗飼料の安定的確保も課題である。牧野を中心とした自給飼料の生産性向上を図り、安定した経営環境を築いていくために支援を継続していく。